

第 342 回研究報告会（9月 29 日）

「知的障害のある人の社会参加とインクルージョン」

森口 弘美（天理大学人間学部准教授）

知的障害のある人は大人になっても親元で暮らし続ける人が多く、障害のない人や、身体障害等の他の障害のある人たちに比べてその割合が高い。障害のある人の親元からの自立に向けては、グループホーム等の暮らしの場や、一人暮らしをサポートするサービスの仕組みなど、さまざまな選択肢ができてきた。しかし実際に親元からの自立を選択する際、自分の意思を言葉で伝えることができない知的障害のある人の場合は、その決断を親がすることになる。問題は、親にとってその決断が簡単ではないことである。「親元から出ていきたい」と自分から言うわけではないわが子を手放すことは、「かわいそう」という憐憫の気持ちを親に抱かせるからである。

報告者はこうした親の認識がどこからくるのか、どのように変化していくのかを明らかにするため、親元からの自立を果たした知的障害者の家族にインタビュー調査を行ってきた。

親が抱く「かわいそう」という気持ちは、「しゃべれない」「訴えることができない」わが子のことを、守ってやらなければならない弱い存在だと認識していることの表れと言える。しかし、親元を離れた暮らしのなかで本人が周囲の人との豊かな関わり合いを経験し、生き生きと楽しんでいることがわかりはじめると、弱く守られるべき存在であったわが子が、主体的に生きる一人の大人であると感じられるようになる。このような認識に至ってはじめて、親もまた、自分自身の生活を楽しんだり、自分自身のその後の人生について考えたりできるようになる。

ここから言えることは、知的障害のある人を社会の一員としてインクルードすることの重要性である。そのことが、障害のある本人のみならず家族の人生をもノーマルなものにしていく。「障害のある人のため」の福祉サービスはもちろん必要であるが、同時に「私たちが障害のある人を受け入れられるようになるため」に変容していくことが、インクルージョンの実現には必要である。

第 343 回研究報告会（10月 18 日）

「障害者福祉現場における福祉労働者のメンタルヘルスの現状と課題」

深谷 弘和（天理大学人間学部講師）

本報告は、障害者福祉現場に従事している福祉労働者のメンタルヘルスの実態調査を通じてみてきた課題について分析・考察をおこなったものである。近年、介護や保育、社会福祉の現場では、ニーズが高まっている一方で、従事する福祉労働者のメンタルヘルス不調、早期離職の問題が深刻になっている。福祉労働者をめぐっては、1950年代から日本で繰り返された「戦後日本社会福祉論争」を踏まえて、真田は（1928～2005）が確立した「社会福祉労働論」がある。この理論では、福祉労働には資本主義体制の維持・発展のための「政策効果」と国民の社会生活上の基本的最低限を確保する「福祉効果」

の二面性が指摘される。本報告では、この二面性の「政策効果」に着目し、2006年に施行された障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）が福祉労働者にどのような影響を与えたのかをメンタルヘルスの実態調査をもとに考察をおこなった。障害者福祉にも市場原理が導入され、商品化が進む中で、福祉労働者の市場原理の内面化が生じ、その結果がメンタルヘルスの実態調査の結果にも表れていることを報告し、参加者からも様々な意見を頂戴し、議論をおこなった。

宗教倫理学会第 22 回学術大会を開催

堀内 みどり

10月30日、標記学術大会が天理大学を担当校として開催された。新型コロナウイルスのため、zoomを使った大会となった。テーマは、「宗教から『公共圏』と『世間』を問い直す」。午前中に4つの研究発表があり、午後に公開講演を行った。基調講演は、本学の渡辺一城人間学部教授が担当し、「社会福祉がめざす地域共生社会と宗教への期待」と題して講演。これまでの社会福祉において、人間の尊厳といった倫理や価値基盤の形成、施設事業や地域福祉活動など社会福祉実践主体としての役割、社会福祉人材養成など、宗教が果たしてきた役割は極めて大きい。社会福祉状況の変化や進展に伴い、宗教に求められる役割も改めて問い直されなければならないとし、宗教による社会福祉、とくに天理教における社会福祉実践と思想を踏まえながら、これからの地域共生社会実現に向けた宗教の役割について提言があった。そして金子昭教授（天理大学附属おやさと研究所）と杉岡孝紀教授（龍谷大学）がコメンテーターとして発題し、全体の質疑応答があった。その後、総会が行われ、本年度の授業計画などが承認された。

『グローバル天理』
メール配信のご案内

当研究所では、『グローバル天理』を、関係各所やご希望の方々へ配布・配送しておりますが、ペーパーレスでのメール配信を開始しました。

つきましては、『グローバル天理』（PDF版）のメールでの受け取りを希望される場合、および紙版の『グローバル天理』の配布・配送を中止される場合は、下記の当研究所メールアドレスへご連絡ください。

なお、当誌はおやさと研究所のホームページで公開しており、そちらでもご覧いただくことも可能ですので、併せてご案内いたします。

皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

連絡先：

天理大学 おやさと研究所『グローバル天理』編集部
E-Mail: glocal@sta.tenri-u.ac.jp
URL: <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>